

豊かな森・里山がみんなの遊びの場・学びの場

～次世代に繋げる地域の絆～

35 清水北公民館

1 清水北地区の概要

清水北地区は、縄文時代より歴史のある朝宮地区と片粕地区、そして昭和46年頃の丘陵地開発によって新しくできたグリーンハイツ地区の3つの地区から構成されている。朝宮地区は、日野川沿いの山際の集落で、中世から江戸時代にかけては、交通の要所として日野川端に船着場が設けられ、三国湊や福井城下からの物資の積み下ろしがあり、米、薪、炭等の取引が行われ大変な賑わいを見せていた。日野川沿いは湿地が多かったため、い草、藍の栽培が行われており、ゴザの製造や衣類の染料で多くの商人が出入りし活気のある集落だった。片粕地区は、縄文時代から人が住んでおり、後に日野川、志津川の治水工事に住民一丸となり努力し、今日では広い耕地を持ちめざましい発展を遂げている。また、結城秀康の養父結城晴朝の屋敷跡があり、慶長6年(1601)8月から、福井城が完成するまでの5年間で、この地に館を構え住んでいた。グリーンハイツ地区は、日野川の西側の丘陵地の開発により生まれた団地である。昭和46年4月より宅地造成が始まり、次々に住宅が建ち並び、小学校、保育園、ショッピングセンター等も建設され、上下水道、ガス等が完備した快適な団地として生まれた。この宅地造成の最中、片粕地籍より縄文土器が大量に発見され、県下最大の縄文遺跡といわれている。

自然も豊かでカンアオイとカタクリが自生し、春の妖精「ギフチョウ」が舞い、初夏には希少植物の「ササユリ」が咲く。

令和6年3月1日現在、人口は2,229人、世帯数は883戸となっている。

2 豊かな里山を学びの場に

(1) 清水北地区里山の会の活動

清水北地区は水田や里山など多くの自然が残る地区である。里山には杉林や雑木林など多様な森があり、春はカタクリ、山菜、夏はカブトムシ、クワガタ、秋はクリ、きのこ、紅葉、冬は真っ白な雪景色など四季



折々の素晴らしい自然が広がっている。しかも標高は高くなく携帯電話

が繋がり誰でも手軽に行くことができる里山である。この素晴らしい里山を住民の憩いの場となるように、平成24年に「清水北地区里山の会」を発足させ、自然を生かした地域づくりが進み始めた。里山の会のメンバー10人ほどが毎月2回、草刈りや間伐等を続け、一周3kmほどのトレッキングコースを完成させた。

里山の会は、草刈りや間伐等のフィールド整備のほか園児や小学生を対象にした自然教室や観察会、トレッキング等、季節ごとのイベントを開催し里山体験活動を通して、自然や環境について学習する機会を提供している。平成28年には福井市より、「福井市環境保全功労者」として表彰を受けた。

(2) 春秋の里山トレッキング

毎年春と秋の2回、里山トレッキングを実施しており、清水北地区の恒例行事になっている。毎回40名程度の



参加者がいる。里山の会のメンバーたちがガイド役になり参加者に植物の名前を紹

介したり、自然を楽しむゲームを行ったりして里山の魅力を伝えている。サウンドマップというネイチャーゲームでは、森の中で目を閉じて耳を澄まし、鳥の鳴き声や虫がとぶ音など聞こえてくる自然の音を楽しん

だ。トレッキングコースには、カタクリの群生地があり、希少植物の「ササユリ」が咲いている。



春の妖精「ギフチヨウ」に出会うこともある。参加者は、五感を使って自然とふれあい、自然

の美しさやおもしろさを再発見していた。コカリナの演奏会もあり、自然の中にとけ込むような音色に、参加者はみな癒されていた。

<参加した児童の感想>

- ・山の雰囲気とコカリナの音色がとても合っていてステキだった。
- ・トレッキングでは、坂道や遊び場などを通ることで、山を肌で感じる事ができた。
- ・木が倒れていて自然の怖さを知ることができた。

3 フラワーロードづくり



花と緑に溢れた美しいまちを目指し、花いっぱい運動の一環として、フラワー

ロードづくりを進めている。

フラワーロードの会のメンバーは、自治会代表、寿クラブ、清水北地区在住の清水中学校の生徒、花いっぱい運動推進委員、公民館職員等から構成されている。清水北地区には、幹線道路沿いの植樹ますにハナミズキの街路樹が約2kmにわたって植えられており、そのハナミズキの根元の空きスペースに季節の花を植えている。花いっぱい運動推進委員会の方に指導していただきながら、清水中学校の生徒と一緒に4月に種まきを行い、苗をポットに上げ花苗を育てる。そして6月に中学生や地区住民100名ほどで植樹ますに花苗を植えると、色鮮

やかな花壇に変わる。それから10月頃までは、中学生



が中心になって水やりや除草作業を行う。10月に種とりを行い、しっかりと乾燥させて保存する。保存した種は翌年に、また新しい花を咲かせる。このように循環をしながら次

年に繋げている。

花いっぱい運動推進委員の方は、「中学生の責任感と優しい心を実感することができた」、「植樹ますの硬い土も、土や肥料を追加して、毎年花壇づくりを続けたことで、花が大きく生長することができた」と語る。フラワーロードの会は花づくりを通じて景観を良くし癒しの空間をつくり潤いのある町づくりを目指している。そして地域への愛郷心を育て「地域づくりから人づくり」へと波及させている。

<参加した中学生の感想>

- ・今年のマリーゴールドは種から育てたので難しかった。しかし、その分花苗を植えた時の達成感はとても大きかった。
- ・清水北地区生徒全員で協力して取り組めた点が良かった。

4 終わりに

清水北地区は、自然が豊かで魅力ある地域ではある。平成28年からのフラワーロードづくりで、参加した中学生は、「地域づくりを自分たちの手でしていこう」という意識が強くなったと感じられる。

今後も、清水北地区の特色を活かした公民館事業を通して、地域の活性化につなげていきたい。

清水北公民館のHPは毎月更新されていて、清水北公民館がどこに力点を置いているかがわかります。

フラワーロードづくりで参加した中学生には、地域への愛着心や地域へ参画しようという意識が芽生えてきていると思います。これからも中学生との連携を継続して、中学生が活躍する公民館事業に取り組んでいただきたいと思います。